

たのしみ

4月号
vol. 074

特集…都市のインフラ①

「コミを考えるチームプロジェクト」

もっと身近に、もっと楽しく
リニューアル
しました!

たのしみ
リニ+たのしみ
プロジェクト

「西成で働くパパたち」

特集：都市のインフラ①

「ゴミを生きるチームプロジェクト」



人とゴミとの ぶがみ関係

毎日の暮らしがあるかぎり、用をなさなくなったものは生まれつつけます。廃棄物、つまり「ごみ」という存在は私たちにとって何なのでしよう。身近にある様々な「もの」は、その時と場合によって不要な、あるいは邪魔ものとして扱われ、それぞれの事情で捨

てられてしまいます。「市場経済」、それが好きか嫌いかに関係なく、消費を促す社会で暮らしているためか、生活に必要なものまで購入し、また廃棄を繰り返してしまおうという循環の中に私たちはいます。その結果、ごみを生み出し、増やしつつつけてしまっています。このごみの問題は目を背けるのではなく、もっと丁寧にもっと身近に接し、感じることから、ただの邪魔ものではなく、都市の新たなインフラ—公共性と社会性—を備えた地域資源として捉えなおすことができるのではないでしょうか。便利さを求めるばかりでなく、ごみを大量に作り出している現実にも目を向け、自分たちの生活スタイルをつくるために考えるヒントを提案したいと考えます。

あ ふれるごみ

私たちの日常生活から、ゴミの処理機能がなくなってしまうと、どんな事態が発生するだろう。例えば、大阪市内全世帯から出されるごみの中の「ごくごく一部にあたる「まだ食べるのでできる食べ残しや賞味期限切れの食品」を、ごみとして処分せず1年間ため込んでしまうとする。すると、北は土佐堀通、南は千日前通、西は四つ橋筋、東は堺筋で囲んだエリア、つまりこれらの幹線道路内にある中央区の中心部がゴミですつぱりと覆われてしまうという。(※1)もし、それら以外のあらゆる全てのごみを処分しなければ、大阪市内すべてがごみで覆われてもおかしくない量になるのではないかな。

ごみ処理

蚊などの生物により病原体が運ばれ、伝染病などが広まり、私たちの暮らしに大きな影響を与えることは容易に想定される。これは極端な想像だが、この「ごみクライシス」は目を背けている内に進行しているかもしれない。

大阪市の一般廃棄物処理基本計画によると、ごみの発生を抑制することで、ごみ処理量(焼却量)がピークに達した平成3(1991)年に217万トンあった処理量は年々減少している。そして大阪市は今、将来的にごみ



(図1)

をピーク時の半分以下である90万トンとする目標を掲げている。これら計画の取り組みの背景に「3Rの推進」が大きく位置づけられている。その3Rのひとつが「ごみの発生抑制(REDUCE)」、ふたつめが「生活用品などを長く使う(REUSE)」、最後に「商品や道具類などの再資源化(RECYCLE)」である。とくに「ごみに対する意識啓発として、小学生を対象としたごみ処理体験学習(環境学習)や、一般市民の見学などを行っている。まだ使えるもの・長く使えるものを、ごみではなく「道具」として使えるように啓発しているようだ。

ごみのゆくえ

環境学習や、啓発活動もあいまって、ごみの分別というキーワードは広く知らわたっている。大阪市の場合は、台所ごみや日常の紙くずなど

の普通ごみ、アルミ空き缶やペットボトルなどの資源ごみ、商品を包装するプラスチック製の容器や包装類などの容器包装プラスチックに分別している。これらをビニール袋などに分けることが、私たちの日常でおなじみのごみ出しルールの基本になっている。

ごみ収集車が集めた家庭から出るごみは、焼却工場や資源ごみの選別センターなどに搬送される。リサイクルに利用できるものは分けられ、それ以外の多くは燃やされ、その灰を埋め立てている。現在、大阪市は市内に8カ所、八尾市に1カ所、焼却工場(※1)がある。私たちの住む地域によって、ごみはそれぞれ決められた工場に日々送られているのだ。

焼却工場では、ごみを900度の安定的な高温処理で燃やすことができる。匂いや有害なガスなどはほとんど出ず、また煙も出さない

で、環境的にもクリーンな施設となっているようだ。とくに大阪市では燃焼効率の高いものや発電できるものなど、歴代先進的な技術を導入するなど、バランスを考えたごみ処理が行われている。

粗大ごみ

とくに転居などで不要になった家具インテリア類、布団、自転車など、一定サイズ以上の物品を行政が有料で引き取ってくれる。私も先日



(写真1. 舞洲ごみ焼却工場の写真)

引越したときに、粗大ごみ収集受付センター(※2)に電話をすると、まずは受付番号を教えてくれた。そのあと、近所のコンビニで「粗大ごみ手数料券」を購入し、自宅の番号を書いて粗大ごみに貼りつけ、指定された日時と場所に置くだけだった。

粗大ごみの処理施設は、大阪市では舞洲工場(写真1)と大正工場に併設されている。ここでは木製品は破砕し木屑として処理され、金属製品は細かく砕き、鉄やアルミの金属と可燃性の屑とに分けられる。金属は回収されリサイクルされている。

現在行われていないが、粗大ごみの中でも再使用可能な物品は、必要な人に再び使ってもらえるように手を加え譲渡する事業があった。また、粗大ごみではないが、子ども服やマタニティウェアなどの一部の衣類など使用可能ごみをごみとせず長く活用し

ていくための取り組みもある。

変化のきざし

私たちの周りには消費を煽るコマースやメディアが蔓延している。生活の便利さを商品に求めるあまり、過剰な包装に加え、必ずしも必要でない商品を手にしていくことも少なくない。ごみが増えればその分、処理コスト、分別コストが大きくなるのしかかってくる。

しかし見方を変えると、ごみを細かく分別すればごみ焼却量は減り、再資源化で新たな利益をもたらす可能性も開けてくる。さらに、分別や再資源化などのごみ処理にかかわる人材も求められるようになり、様々な雇用が生まれるだろう。一方で、複雑な処理、回収などにかかる費用も大きく膨らむかもしれない。

実際、ごみ処理費用を有料化する市町村が増えてきている。様々な角度からメリット、

デメリットをにらみながら、今まさに各自自治体が試行錯誤している。一人ひとりのごみは少量でも、都市として集積されたとき、ごみはとてつもない巨大モンスターとなって、私たちの想像以上に大きな影響力を持って迫ってくるかもしれない。

ごみは嫌われものだ。誰もが一刻も早く周辺から消えてほしいと思っている。しかし、今ある持ちものにまづは愛着を感じ、無駄なものには必要以上に流されず、丁寧に選び使うというスタイルを自覚することで、嫌われごみが少なくなるかもしれない。私たちの生活に密着する「ごみ」への視点を変化していくヒントを探っていきたい。

(佐々木)

「人とゴミとのふかい関係」は、不定期的に掲載いたします。



【田岡秀朗】あること？ないこと？ゴチャ混ぜでお馴染みの田岡です。分別できる？分別のある？人間になるよう、がんばります。



【平川隆啓】ひょんなことから「なび」のメンバーに。ちなみにこの「ひょん」、接ぎ木の意とか。ぼちぼち根付いて思いがけない花が咲くかも？

※1 八尾工場は大阪市と八尾市のごみを焼却している。

なお、8カ所の内、森之宮工場は平成24年度中に閉鎖予定である。

※2 粗大ごみ収集受付センター(大阪市): 0120-79-0053(通話無料) 06-6377-5750(携帯電話から)

[レンタルサイクル]

HUBchari (ハブチャリ)

シェアサイクルで自転車おっちゃんたちの仕事づくり!
自転車を借りてふらっと西成めぐり

貸出場所: ホテルみかど(太子1-2-11)

レンタル料: 基本料金200円+30分100円(最初の30分は無料)

詳しくは、<http://www.hubchari.com/>

大阪の地図を見渡すと、へそのように大阪城があり、その周りを川や道が取り巻くように広がる。そんな中、南へと延びる上町台地の崖の緑地帯がちよっと目を引く。その先には、独特な文化や食が行き交う新世界や天王寺公園が肩を並べ、さらに再開発などで変貌する阿倍野のまちなど、南の主要な顔が続く。さらに南下すると天下茶屋や松虫などちよっと不思議でちよっとしたまちが広がっていく。

この大阪の南側、西成界隈で繰り広げられるまちの雑多な魅力を取り挙げる企画「サウスオブミナミ」。

そんな味わい深いまちを地図に重ねながらめぐらそう。

サウスオブミナミ

vol.01

今回は、**自転車で寄り道バージョン!**
上町台地の崖上、共立通から西成の西天下茶屋を通ってぐるっと一周!とにかく何でも見つけて触れて体験して味わう自転車さんぽ企画!

鶴見橋商店街

アーケードに軒先などなど、見上げれば...幾何学模様のパラダイス

地下鉄花園駅

堺筋

阿倍野区の細い道がひしめく共立通を出発!

上町台地の高低差で大パノラマ

南海本線

阪堺線

上町台地の産

まちなかで見つけた工作所

路地に入ると植木鉢ひなだん

共立通

摩訶不思議な機械と工具、そして唯一無二の作品たちの博物館

もりもりあふれ出すカラフル駄菓子&おもちゃ

和菓子がいっぱい!桃色、若草色など色とりどりの軒下

ふらっと見つけた創業78年の喫茶店

レトロな味わい看板

天下茶屋

地下鉄岸里駅

西天下茶屋商店街

リ+なボク

No.01

西成で出会った二人がそぞろ歩きながら
まったりトーク企画。
活動もフィールドも違う二人が、偶然に
出てきたテーマを広げていきます。
初回は、山王、太子界限を南へ向かい
ながら、平川と田岡で歩きます。

プロフィール

田岡秀郎

やんちゃな5歳の男の子の父で、奈良の生駒から西成へ毎日のように通う。西成の社会的企業ではたらく何でも屋。チームなびのメンバー。

平川隆啓

おなじく4歳になる男の子の父で、大阪の空堀在住。自転車で行ったり来たり。調査・研究＆まちづくりの会社ではたらく何でも屋。チームなびのメンバー。

田岡：西成との出会いは、2000年ごろ調査のアルバイトで、わけもわからず歩き回ったのがきっかけです。ちょうどあいりん地域のあるこのあたりで、コインロッカーやコインランドリー、簡易宿所などを探し回ってました。簡易宿所がアパートやバックパッカー向けのホテルに変わろうとしている最中に入り込んでいきました。

平川：実は自分も、調査ではないけど、大学生のころ先生に学会でつれだされて、そのとき泊まったところが釜ヶ崎の簡易宿所でした。2007年ごろだったので、釜の安くて便利な簡易宿所が、バックパッカーたちから、さらにアツい視線をあつめはじめたころと重なります。

田岡：そのころからすると、だいぶこのまちも変わってきてる…。でも商店街をちょっと横にそれると、細い路地とか、この小さな家が肩を寄せて並んでる感じとかは変わらんよね。

平川：阿倍野の再開発や、観光客でにぎわう新世界、飛田や山王界限の住宅密集地、そして簡易宿所の連ち並ぶ釜ヶ崎とか…まちの様々な変化のありようが、間近に見られる場所やと思う。

田岡：たしかにこの界限はいろんな表情をもったエリアが密集していて、オモロい。

平川：ちょっとした道を渡るだけで、がらっと場面が切りかわったり。

田岡：迷いながら歩くのも楽しいよなあ。

平川：そうそう、こんな狭い路地を見つけると、

つつい入っていきたくなる！

田岡：ちょうど調査で路地を歩き回っていたときも、偶然、三味線の皮となる猫を飼養する「猫塚」を発見して、わくわくしたわあ。

平川：三味線とか芸能が盛んな地域性を反映した風習も奥深いけど、猫塚がある場所も味わい深いな。

田岡：この狭い路地を入ったところに桜の木がせり出していて、そのかたわらにある小さな神社にぼつんと猫塚がある感じが好きやな。

平川：何回きても、この空間の雰囲気は新鮮に感じるねんな。

田岡：はじめて来たときは、路地のほんわかした生活感のなかに、歴史的な奥行が混在していて驚いたな。

平川：たしかに。そんなときの印象がまちのイメージを変えるよな。

田岡：今は西成のまちのいろんな動きに関わりながら仕事をしてるけど、そのときのイメージが大きくベースにあるんかも。

平川：あ、そういえば父親トークをって思ってたけど…。(笑)

田岡：ま、初回やしこんな感じで(笑)。

今回はホストを田岡へバトンタッチし、毎回いろんな人へとつなげていきます！



[みかん] 西成は天下茶屋しか行ったことがなかったので新鮮でした。猫塚とか、男湯しかない銭湯の話がおもしろかったです。逸話がいっぱいあるのになって興味持ました！



[いっぺい] 西成区は治安があまり良くないイメージを持っていましたが歩いてみると意外に良い場所、元気な子どもたちもいて、もう一度行きたくなる、そんな街でした。

いい湯かげん

障害者雇用の法律が変わって想うこと

障害者雇用促進法によって、企業に従業員の一定割合以上の障害者の雇用を義務付ける法定雇用率が、この4月から、民間企業が2.0%、国や自治体が2.3%と0.2%ずつ上がる。さらに、厚

労省は5年後の2018年には、精神障害者の雇用も義務づける改正案を今国会に提出する方針だから、さらに法定雇用率は上がることになる。また、4月から、国や地方自治体等の公機関が、物品やサービスを調達する際、障害者就労施設等(多数雇用事業所や在宅就業事業所も含む)から優先的・積極的に購入することを定めた「障害者優先調達推進法」も施行された。この

本方針」を策定することと、公契約の競争参加資格に、障害者の就業を促進する「必要な措置」を講じることを求めたことにも画期がある。

1999年に大阪府は「行政の福祉化」という部局横断の福祉施策を提唱し、14年継続してきているが、ようやくと言え失礼だが、国も、生活困窮者のための「生活支援戦略」も含めて、「福祉化」を始めたこと歓迎したい。大阪府では、雇用ではなく就労支援を目的にエル・チャレンジという福祉事業体に公契約を発注する「必要な措置」から始め(1999年)、2004年の「総合評価一般競争入札制度」の導入で、施設等管理に限定され

ているが、雇用率の評価基準を法定雇用率の3倍の5.4%に、契約当該職場は10倍の18%に設定し、現在では、総合評価入札の応募企業の平均雇用率は10%近くに上昇し、障害者雇用率20%に達する多数雇用事業所になったビルメン企業も出てきた。

「福祉化」ってわかりにくいという声が多いから、ボクは、消費税になぞらえて、これまでの福祉はいわば「外税」で、これからの福祉は「内税」、それが「福祉化」と解説して、公共調達に「中間労働市場」「総合評価入札」「就労支援費込労務単価」を導入すべきと提案してきた。「福祉化」の名付け親の中川治前衆議院議員に、外れてはいないが、的は射てないと首を傾げられたので、ずっと考えているが、これ以上の解説は見つかっていない。はたまた、外税(法制度)がある障害者雇用なら内税という対策が功を奏するが、法制度のない就職困難者では「土台なき杭打ち」になるから、公共調達等に「新



[高橋静香] 近いようでとおかった西成。一歩足を踏み入れてみると、そこは、とても愛のあるまちでした。



株式会社代表取締役
富田一章

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

西成活動記

第一回「柳月堂」

文：平川隆彦／写真：高橋静香

何気ない地域のあたたかい営み

西天下茶屋駅を西へ、商店街から細い道に入ると、西日除けのカラフルなテントが連なり、その中に一軒の和菓子屋さんがぽつんとあります。

季節に合わせて手づくりされた品々が並ぶ軒先では、近所の人たちが「いちご大福まだある？」とちょっつとした楽しみを品定めしていました。「地元のみんなにできてを楽しんでもらいたいから、WEBとかで宣伝はしてないです」。そんな丁寧な和菓子づくりをされている「柳月堂」さん。もともと

とは阿倍野で商いをされていたのですが、「先代のときに火事になってね、それでここに移ってきたんです」。縁あって、西成の下町で商いをする。今では地域がら愛される和菓子屋さんとして、近所の方々が行き交う日除けテントの通りを温かく見守っています。



「柳月堂」
西成区橋3丁目5-21
☎06-6651-13058

写真：冬から春の寒い時期にしか作れない期間限定のあられ

枝葉末節

漫画少年 その1



hidarimaki こと佐々木です。恐竜が絶滅した白亜紀が再び近づきつつあります。金の亡者という恐竜が、私たちの国を呑み込んで、いよいよ滅亡のカウントダウンです。アベノミクスを阿倍野再開発と信じていたタタリです。

先日引越し準備のため不用品を処分していると、「漫画少年時代」と書かれ変色したポロ封筒があらわれた。私が中学校に入学した頃の頃に描いた四コマ漫画が一点と、高校一年生の頃に描いた四コマ漫画や短編作品などが十数点同封されている。絵の表現が稚拙、デッサンが未熟、ストーリーが平凡と、自分の能力の無さがあからさまで恥ずかしいかぎりだが、四コマ漫画だけは妙にキレテツなものがあり、変な発想だけは少年時代からの天分だと納得してしまっ

た。小さな頃から漫画家が夢であった。私の小学生時代、多くの少年雑誌が刊行されていて、出版社が

募集する漫画作品を投稿し万年筆を景品でもらったこともあった。中学校に入ると同時に漫画を読むことをやめた。そのかわり、当時界限で流行っていた貸本屋で見ることができなかった出版メディアに熱狂した。それが関西発信の「劇画」と呼ばれる新しい表現形式の漫画であった。社会的な毒をはらみ、大人の世界を垣間見るようで少年の心に新鮮だった。わが家に近所の後輩たちを集め、劇画塾などという画房を思いつきで始め、私の描く作品のコマや絵に墨入れなどをさせ悦に入っていた。しかしすぐに貸本屋ブームも去り、高校の半ばを過ぎる頃には漫画も劇画も見ることが卒業し、ついに漫画家志望もあきらめてしまった。もちろん漫画を描くことにも飽きていく。

昭和32（1957）年、私は東住吉区内にある市立田辺中学校に入学した。創立22年なので第11期生だ。当時、学校南側周辺には広大な雑草地と沼地が広がり（現長居公園）、その一角に長居競馬場（現長居競技場）があった。同級生には転校してきた既舎の子

弟がいて、しかし風の又三郎のごとく、いつの間にか教室からいなくなっていた。地方競馬への巡業のせいだったのだろうか。また同級生のなかには、馬の後ろ足で蹴られ怪我をした女子もいて、同窓生のあいだで今も話題になることがある。その昭和32年7月に発行された「田辺中学新聞」の中に掲載された漫画がある。私が入学当初に描いた四コマ漫画であり、それが前述のタイムカプセルのごときポロ封筒に入っていた作品のなかの一つだ（写真詳細）。

この四コマ漫画の掲載は、学校が全校生に応募を呼びかけた後、集まった作品を品評した結果選ばれて掲載されたものだ。中学生の生活がまだなじみきれない頃、私は応募していたことになる。新聞



hidarimaki



ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

ピースのつぶやき



「春だよ、春だよ」って
耳元で声がした。
チュンチュンチュンと
優しい声だった。
「春だよ、春だよ」って
耳元で音がした。
そよそよそよと
優しい音だった。
「春だよ、春だよ」って
耳元で何かを感じた。
ぽかぽかぽか
優しい温もりだった。
だから私も、
「春だよ、春だよ」って
ワンワンワンと
大きな声で返事した。
春は新生活の
スタート地点。
ゴール目指してみんなで
よーいドン。

赤井まゆみ



【四井恵介】なび＝道しるべ。人と人をつなぐだけでなく、普段交じり合わないクラスメイト（あつまり）同士が重なっていくきっかけにしていきたい。



【飯田沙保里】たくさんの人とのご縁から、西成へ。知らないことを知る喜びを。知っていることをより深く追求する楽しみを。

思ったら！ にしなりカレンダー

4/27

動物園前サイエンスカフェ 動物園前の100年とは！！

いろいろな文化が集まる天王寺動物園界隈。新世界、美術館、公園、そして連なる商店街。そのひとつ、動物園前1番街でこのまちの100年を語るサイエンスカフェが開催されます！

★第6回 動物園前サイエンスカフェ

「天王寺動物園界隈100年」と称して、第5回国内勸業博覧会以降のまちの変貌について紐ときます。

・中川哲男さん（元天王寺動物園長）

・4月27日（土）14:00-16:00 ・参加無料

会場 動物園前1番街アーケード

主催 飛田本通商店街振興組合

<http://www.dobutsuenmae.com/>

<http://enmae12science.blog.fc2.com/>

4/18

uni:neu(ユニ:ノイ) 大人のワークショップ

レトロな阪堺電車がはしる天神ノ森のすぐそばにある小さな雑貨と貸本のお店「uni:neu(ユニ:ノイ)」さんでは、大人も子どもも楽しめるいろんなワークショップが充実！

★ミニ陶器つくろう会

土に触れたり 無心でこねたり…。

忙しい日常から少しだけ離れて陶器づくり。

・4月18日（水）13:00-

・参加費 1,300円（要予約）

★他にも楽しいワークショップがたくさん！

問合せ・会場 uni:neu(ユニ:ノイ)

〒557-0042 大阪市西成区岸里東 2-1-1

ミカサハイツ 1F

Tel.06-6651-3390

E-mail: unineu315@gmail.com

<http://unineu.cocolog-nifty.com/blog/>

5月

いろんな講座シリーズ シリーズものしっかり学習

★手話講座（入門編）

これから手話を学びたい人の手話講座。

・5月7日-9月の毎週火曜日 19:00-20:30(全18回)

・定員 20名程度（申込み多数の場合抽選）

・参加費 2,500円 + テキスト代 1,200円

問合せ・会場 西成障害者会館

〒557-0025 大阪市西成区長橋 3-2-27

Tel.06-6562-5800 Fax.06-6562-6677

ちょっと自分をスキルアップ。新しいことにチャレンジするきっかけにいろんな入門編を集めてみました。

★保育ボランティア養成講座

子どもの遊びやコミュニケーション、健康などについて学びます。

・5月9日・16日・23日（木）10:00-12:00（全3回）

・定員 20名（申込み多数の場合抽選）

・応募締切 4月26日（金） ・参加無料

問合せ・会場 市民交流センターにしなり

〒557-0025 大阪市西成区長橋 2-5-33

Tel.06-6561-0007 Fax.06-6561-9154

あとがき

お届けが遅くなりました。リニューアルした「なび」はいかがでしたか。

若いスタッフたちに動いてもらい、左うちわで気楽な編集長に徹しようと思っていました。しかしあのロゴタイプが必要、このイラストを描けとスタッフたちからの過酷な催促で、何のことはない従来以上に多忙なスケジュールを引き受けていました。編集長というより偏執狂として、これまでよりも面白い冊子づくりを続けなければなりません。（佐々木）

なび 4月号 (vol.74)

発行日: 2013年4月10日 (創刊日: 2007年1月1日)

発行: 株式会社ナイス

発行人: 代表取締役 富田一幸

印刷: 有限会社前山企画

住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp url: <http://www.nice.ne.jp/>

編集長: 佐々木敏明

編集: 田岡秀胡、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

デザイン: 高橋静香 イラスト: hidarimaki

表紙写真撮影: 大阪市立工芸高等学校 撮影研究部

三上真奈美(みかんちゃん)、一ノ瀬武留(いっぺいくん)

★表紙の写真は、太子町の猫塚で高校生が撮影しました★